

# 平成22年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	6 - 3 - 20
事務事業名	保育所緊急整備事業			担当課係	児童福祉課
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	その人がその人らしく住める地域社会		内線等	
	小項目	5. 地域において安心して出産し、子育てできる環境の整備		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	3	民生費	項	3
	目	6	保育所費	事業	17
開始年度	平成	22	年度	根拠法令・要綱等	徳島県子育て支援臨時特別対策補助金交付要綱、安心こども基金管理運営要領、小松島市子育て支援臨時特別対策補助金交付要綱

## 事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 社会福祉法人 幸生会 子安保育所に通常保育入所や特別保育サービスを利用する保育所入所児童及びその保護者、並びに保育施設運営管理をしている子安保育所職員等
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 保育所等緊急整備事業により保育施設の整備、及び施設面積の拡充による定員増員を行い、安心して子育てができる保育環境整備を図る。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 保育所等緊急整備事業を活用し、老朽化した保育施設の建て替えを行う。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 子安保育所は、園舎が一部木造施設部分もあることから、耐震構造面での水平耐力に問題を抱えており、加えて、昭和49年に改築した木造・鉄骨造り2階建の園舎も、新耐震設計法が施行された昭和56年5月31日以前に建築された施設であることから、市内民間保育園（所）の中でも、特に喫緊に保育所施設整備が必要である。

## 事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果 単年度施設整備事業のため、指標なし。
	単位		H21	H22	H23	H24	将来目標 (年度：平成)	
	目標							
実績								
達成度								

  

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H21	H22	H23	H24	指標の説明
				計画				
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					

## 事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		21年度決算	22年度決算	23年度決算	22年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費		106,063,000	0	106,063,000	
	財源内訳	財源内訳		70,708,000		
		地方債		14,400,000		
		利用者負担		0		
		一般財源		20,955,000		
	B 人件費 ×		696,936	0		
	職員平均人件費		6,969,363			
従事した割合 人		0.1				
A + B		106,759,936	0			
単位コスト	活動指標の説明				備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト				平成21年4月1日現在 人口41,778人	
	市民一人あたりのコスト		2,572		平成22年4月1日現在 人口41,507人	

事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 平成19年10月末に「安心こども基金」が創設され、保育所等の施設の整備や多様な保育に対する需要に対応するための体制整備等、子どもを安心して育てることができる環境の整備に要する経費に充当する経済対策が講じられており、平成21・平成22年度の両年度においては、保育所整備及び子育て支援拠点施設整備を目的とした従前の次世代育成支援対策施設整備交付金は執行が停止され、国から交付された交付金を財源として、各都道府県において基金(「安心こども基金」として造成し、国庫負担相当額を「安心こども基金」を財源として市へ補助することとなっている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 現在子安保育所に入所している保護者からも、施設管理の安全性を危惧し、老朽化した施設の早急な整備を望む声が寄せられている状況である。

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	必要性が高い	老朽化した保育施設の保育環境整備の改善がなされ、また、施設面積の拡充による定員増により、増加する保育ニーズの受け皿を確保し、地域において安心して出産し、子育てできる環境の整備の推進のため、必要性が高い。
	どちらかといえば必要性がある	
	必要性が低い	
	必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	市が行わないといけない	基金並びに事業の目的を達成するために、市が主体となって事業をしていく必要がある。
	どちらかといえば市で実施	
	必然性が低い	
	必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	効率的である	安心こども基金の財源を活用し、併せて市補助負担の一部に、国における経済危機対策としての「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」による積立金を取り崩し、充当することにより、効率的な施設整備となっている。
	どちらかといえば効率的	
	どちらかといえば非効率的	
	非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	緊急性が高い	当該施設整備事業は、耐震構造的観点からも他の民間保育園(所)に優先して、実施すべき緊急性を要する事業である。
	比較的緊急性がある	
	緊急性が低い	
	緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	成果が上がっている	老朽化した保育施設整備により、保育所入所児童の処遇面の改善向上による当該保育施設における様々な保育サービスの質の向上が図られる。また、定員増加により、高まる保育ニーズへの対応が可能となる。
	どちらかといえば上がっている	
	どちらかといえば上がっていない	
	成果は上がっていない	
今後の課題	公立6園・私立2園が、新耐震設計法が施行された昭和56年5月31日以前に建築された施設であり、今後も保育環境の整備を図っていく必要がある。	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		80点以上		評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60~79点	3 改善・効率化し継続	50~59点		
2		4 見直しの上縮小する	40~49点	4 見直しの上縮小する	40~49点	2	本事業は、平成23年度までの暫定的事業であるが、今後は、「次世代育成支援対策施設整備交付金」等の事業を活用し、必要に応じ、効率的に施設環境整備に取り組んでいく。
		5 終期設定し終了	30~39点	5 終期設定し終了	30~39点		
		6 休 止	20~29点	6 休 止	20~29点		
		7 廃 止	19点以下	7 廃 止	19点以下		

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		判定説明
		2 現状のまま継続する	3 改善・効率化し継続	
2		4 見直しの上縮小する	4 見直しの上縮小する	事業により、児童の保育環境や定員増加による入所対応が改善され、成果があったと認識できる。 今後の国の施策や、急速に進む少子化社会において、保育施設等の環境整備についての検討が必要である。
		5 終期設定し終了	5 終期設定し終了	
		6 休 止	6 休 止	
		7 廃 止	7 廃 止	